

YOKOKOKU KOKUKOKU

横国刻々



“横国の留学”
最新情報の特集

五感で学ぶ、世界の今。

CONTENTS

特集

02-12

Dive into the Unexpected World.

五感で学ぶ、世界の今。

04-09

留学の最前線からZoom

——世界各地に留学中の学生たちによるオンライン座談会

小澤 慎平 (経済学部 経済学科 3年)
留学先: スイス ベルン大学

田川 祥子 (経営学部 経営学科 2年)
留学先: 台湾 国立清華大学

谷口 佳穂 (教育学部 学校教育課程 教科教育コース 3年)
留学先: フィンランド オウル大学

皆川 太佑 (経済学部 経済学科 2年)
留学先: イギリス ノッティンガムトレント大学

10-11

いつから、どんな風に備える? 留学準備ロードマップ

12

困ったら訪ねてみよう 留学サポート団体・イベント紹介

学生団体「105 (いちまるご)」
学生団体「En2 (エンツー)」
イベント「YNUインターナショナルウィーク」

13-23

YNU PEOPLE

14 複雑な現実に向き合う知恵をシミュレーションゲームで磨き上げる。
田名部 元成 (国際社会科学研究院 教授)

16 システムの力で描く、より良い未来への航海図。
満行 泰河 (工学研究院 システムの創生部門 准教授)

18 創作ダンスの真髄は、ひとつの主題をチームで表現すること。
今中 彩乃 (教育学部 学校教育課程 人間形成コース 心理発達専攻 3年)
外山 陽大 (教育学部 学校教育課程 教科教育コース 英語専門領域 3年)

20 歴史好きの学生起業家が作り出す観光と地域と教育のつながり。
中野 賢伸 (経済学部 経済学科 4年)

22 部活の夢も、将来の夢も掴みたい。
硬式野球部で歩んだ、文武両道の4年間。
八木 航平 (教育学部 学校教育課程 4年)

24-25

横浜国大の名物授業!

「ゲーム理論」
佐野 隆司 (経済学部 / 国際社会科学研究院 准教授)

「感覚知覚システム論」
岡嶋 克典 (理工学部 / 環境情報研究院 教授)

「現代ポピュラー文化論演習/Animation Culture」
須川 亜紀子 (都市科学部 / 都市イノベーション研究院 教授)

26-27

特色ある教育プログラムを紹介 ——教育学部・都市科学部

26 教育学部
学校教員養成課程

27 都市科学部
都市社会共生学科 / 建築学科
都市基盤学科 / 環境リスク共生学科

28-31

ヨコココ歴史ものがたり 第7話 学生歌「みはるかす」

32

YNU NEWS Vol.7

横国は、学生の約1割が留学生。

そして「日本留学 AWARDS」5年連続「大賞」を受賞し

「殿堂入り」も果たしました。

横国は居ながらにしてグローバルを体感できるキャンパスです。

そんな中から、短期、長期の留学を志すたくさんの日本人学生もいます。

コロナ禍でも諦めずに準備を進め、

今、充実した留学生活を送る学生たちがいます。

『横国刻々』第7号は、そんな皆さんの座談会を特集しました。

異なる地域で海外生活を送る彼らに、オンラインでつながってもらい、

留学のリアルを語ってもらいました。

本号では、留学に関連する本学のサポート情報も掲載しました。

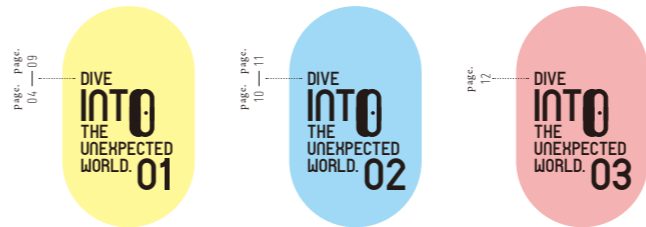
横国から世界へ、と思う皆さんは、ぜひ参考にしてください。

広報委員会 委員長 (理事・副学長)

高木 まさき

五感

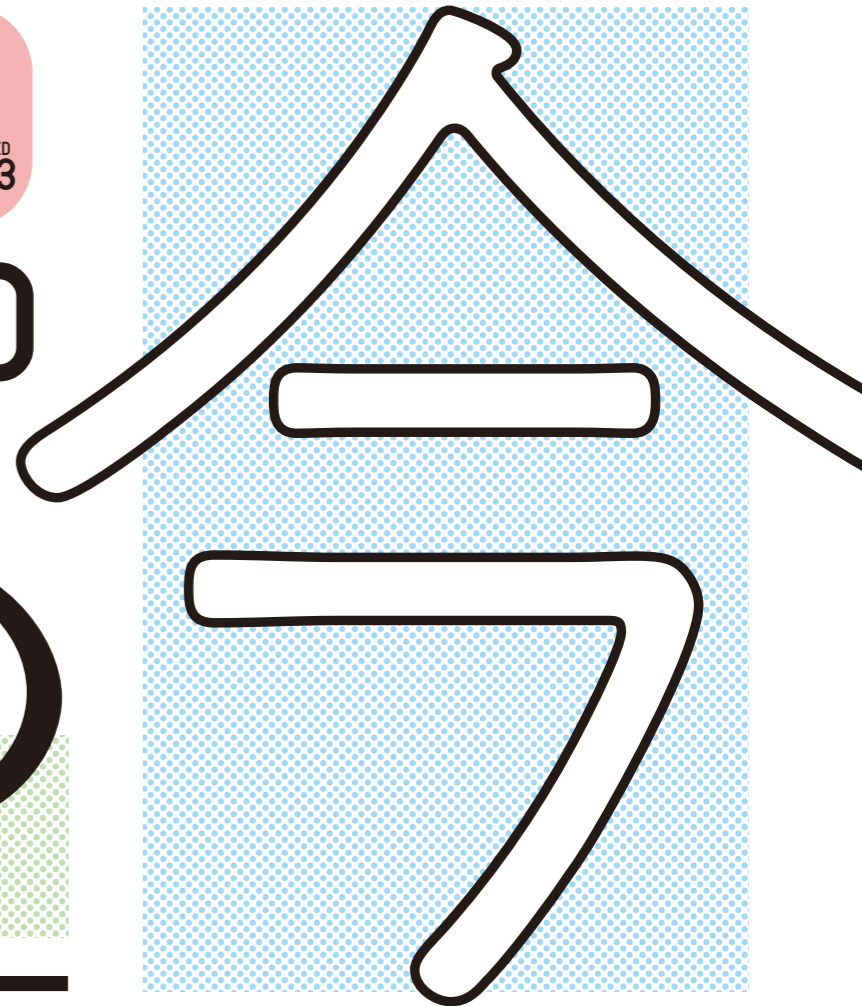
で学ぶ



DIVE INTO THE UNEXPECTED WORLD

留学を取り巻く状況は、2020 年を境に大きく変わった。本学でも一時は留学生数・留学派遣数がぐっと落ち込み、未だに 2010 年代の水準には戻っていない。しかし、そんな状況だからこそ、変わりゆく世界をその目で確かめ、さまざまな国の人々と意見を交わし合うことには大きな意義があるはずだ。海外へのチャレンジを後押しするべく、本特集では「今の留学」のリアルを伝える座談会や留学制度紹介をお届けする。

世界の



数字でわかる
「YNUの留学」

144校
交換留学の留学先として
選べるのは、144の大学と機関。

43か国
交換留学の留学先として
選べるのは、43の国と地域。

27名
2022年の
交換留学派遣学生数は27名。
2022年に本学で
最も人気のあった留学先は
アメリカ (29.6%)、
次点はイギリス (25.9%)。
29.6%

17コース
本学から申し込める国内英語研修
プログラム、語学・異文化交流研修は
17コース (2022年)。

70科目
開講されている
英語関連科目は70科目。
10万円
本学の
「交換留学派遣生奨学金」の
支給金額は最大1人10万円
(日本学生支援機構等の
奨学金を除く)。


8%
全学生に対する留学生の割合は約8%
(2022年5月時点で9,410人中717人)。
5年連続
全国の日本語
学校が選ぶ
「日本留学
AWARDS」で
5年連続大賞を
受賞し、殿堂入り。

留学の前線からZoom

世界各地に留学中の学生たちによるオンライン座談会



新型コロナウイルスは海外留学を取り巻く状況にも大きな影響を与えた。今の学生は、留学のためにどのような準備を行うのか。現地での学びはどう変化しているのか。普段はなかなか聞けない生の声を届けるべく、世界の各地域に留学中の4名の学生たちにオンラインで話を聞いた。

STUDENT 01	STUDENT 02	STUDENT 03	STUDENT 04
 <p>小澤 慎平 OZAWA Shinpei</p> <p>所属 経済学部経済学科 3年 留学先 スイス ヘルン大学 留学期間 2022年秋~2023年春</p>	 <p>田川 祥子 TAGAWA Shoko</p> <p>所属 経営学部経営学科 2年 留学先 台湾 国立清華大学 留学期間 2022年秋~2023年春</p>	 <p>谷口 佳穂 TANIGUCHI Kaho</p> <p>所属 教育学部学校教育課程 教科教育コース 3年 留学先 フィンランド オウル大学 留学期間 2022年秋~2023年春</p>	 <p>皆川 太佑 MINAKAWA Taisuke</p> <p>所属 経済学部経済学科 2年 留学先 イギリス ノッティンガムトレント大学 留学期間 2022年秋~2023年春</p>

留学のきっかけに 高校時代の海外経験が

——本日は時差もあるなか、お集まりいただきありがとうございます。まずはそれぞれ、簡単に留学先の紹介をお願いします。

小澤：私はスイスのヘルン大学に留学中です。ヘルンはスイスの首都ですが、スイスの国全体だと5番目ぐらいの都市であり大きくはあり

ません。ただ、街の中心部が古くからあり、世界遺産に登録されているとても美しい街です。大学もその中に含まれています。

谷口：フィンランドのオウル大学に留学しています。オウルには有名な通信会社の「ノキア」があり、他にもテクノロジー系の企業が多く集まっています。ただ、他に有名なものがあるわけでもなく、比較的のんびりした郊外の街という印象です。

皆川：イギリスのノッティンガムトレント大学に留学しています。ノッティンガムは田舎らしい雰囲気のコパクトな街ですが、大学が二つあ

る学生街でもあります。

田川：私は台湾の国立清華大学に留学しています。大学のある新竹は台北からバスで1時間ほどの場所です。日本統治時代の建物も結構残っていて、日本風の市民館などもあります。

——地域も言語もばらばらで面白いですね。事前のやりとりでは、4人とも高校時代に海外を訪れた経験があると伺いました。

小澤：自分は高校のときの海外研修で、アメリカに10日間ほど滞在し

ました。「一度でいいから海外で生活してみたい」という気持ちで参加したんですが、そこからさらに海外への関心が強くなり、大学でも長めの留学に行ってみたいと思うようになりました。

谷口：私も同じような形で、姉妹校交流でアメリカに2週間行きました。もともと先にホストファミリーを受け入れていて、それが楽しかったので自分もアメリカに行ってみたいなど。

皆川：自分は中高一貫校だったんですが、グローバル教育に力を入れている学校だったので修学旅行先も海外でした。中学はカナダで、高校はシンガポールです。それが海外に関心を持つきっかけになったのかなと思います。

田川：私は少し長めで3ヶ月ほど、ニュージーランドに交換留学をしていました。修学旅行先もシンガポールだったので、今思えば国際交流にかなり重きを置いた学校だったのかもしれません。

目的も三者三様 留学の

——現在の留学先は、皆川さん以外はみなさん非英語圏ですね。高校時代に英語圏を経験済みだからこそ、大学では非英語圏に留学しようと思われたのでしょうか。



本座談会の収録風景。左上：小澤慎平さん、右上：田川祥子さん、左下：谷口佳穂さん、右下：皆川太佑さん。

田川：私はそのパターンです。中国語に興味があったので、英語圏以外なら台湾がいいかなと思っていました。

皆川：自分の場合は次も英語圏がいいかなと思っていて、かつヨーロッパに興味があったのでイギリスにしました。イギリスのサッカーが好きだったというのもきっかけの一つですね。

谷口：私も最初はまた英語圏に行きたいかなと思っていましたが、たまたま大学で読んだフィンランドの教育についての本が面白くて、一気に興味が変わりました。協定校にフィンランドの大学があったのは奇跡でしたね……！

——フィンランドもそうですが、スイスと台湾もメジャーな地域ではないですよね。何かきっかけがあったのでしょうか。

小澤：自分がスイスを選んだのは、多言語国家で外国人居住者も多いスイスという国に純粋に興味があったからです。自分とはまったく異なる

価値観や課題を抱えているだろう人々が、何を考えているのかを知りたいという好奇心ですね。

田川：私は海外でビジネスを学びたいという希望があったので、そういう意味でも中国語圏に関心がありました。国立清華大学は近くに「台湾のシリコンバレー」とも言われるサイエンスパークという地域があるので、学ぶ環境としても良さそうだなと。

どう影響した？ コロナは留学準備に

——みなさんは早い段階から留学への意志が固まっていたとのことですが、とはいえ入学してすぐにコロナ禍がやってきてしまったわけですよね。準備にはどのような影響がありましたか？

皆川：自分は1年生の頃から準備していたんですが、当時はまだイギリ



1



2

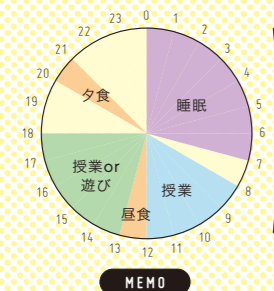


3



4

1: スイスの伝統料理 Rosti が振る舞われる催し。場所は連邦議事堂前の広場。 2: スイスの観光地 Harder Kulm からの眺め。 3: フランス語圏の湖に友達と訪れた際の写真。 4: ベルン大学の main building 正面。



小澤さんの一日

MEMO

- ・授業は午前中が多め
- ・土日のうちどちらかは外出
- ・予定のない日は図書館で勉強

スの入国制限が厳しくて、ワクチンを3回打っておく必要がありました。それは少し大変でしたが、他には特にコロナの影響は感じていません。こちらに来てからも特に意識はしていません。

小澤: 就活と被らないように本当は2年生のうちに行きかけたんですが、1年生の時にコロナ禍になってしまったので、一旦応募を見送りました。自分で行くタイミングを選べなかったのはちょっとネックでしたね。ただ、自分も直前の準備や留学後に関しては特に影響はなかったです。

谷口: フィンランドも正直、コロナはそこまで意識せずに済んでいます。むしろ準備段階が一番懸念していたのはウクライナ情勢です。フィンランドはロシアと国境を接しているの……。

田川: たぶん、この中だと台湾がもっともコロナ対策の厳しかった地域だと思います。一昨年の応募段階ではまだ渡航すらできない状態で、留学に行けることが確定したのも出発の1か月前でした。

——地域によってだいぶ影響が違いますね。他に準備段階で気づけたこと、大変だったことはありますか？

谷口: 留学準備と教育実習の期間が被ってしまって両立が大変でした。あとは、寮の手続きで現地の民間企業とやりとりする必要があり、その

時は時差や英語に苦労しましたね。「留学はもう始まっているんだ……」と感じました。

小澤: 寮から大学までの道のりや、近くのスーパーの位置など、生活に必要な場所についてはあらかじめ調べておきました。もし移動中にスマホの充電が切れてしまったら大変なので、一応すべて紙に印刷もしました。

谷口: 私も他の留学経験者の体験談から似たようなことを学んで、買い物の場所は事前に調べました。電車は特に不安だったので、駅や車内でWi-Fiがちゃんと繋がるかを事前に調べたり、切符の買い方をスクリーンショットしたりもしました。

「言葉の壁」 現地での学びと

——続いて、留学先でのお話を伺えればと思います。まずは学んでいる内容や、授業の様子について教えてください。

田川: 経済学と中国語の授業を受けています。同じ授業が中国語と英語でそれぞれ用意されているので、私は英語の方を受講しています。意外と台湾の学生たちも英語の授業を受けていたりするので、留学生だらけという感じではありません。

小澤: スイスではおもに経済学とヨーロッパの政治について学んでい

ます。専攻の授業の3割ほどは英語で開講されているので、一般学生と一緒に受けています。あとは、ドイツ語も勉強中です。

皆川: 自分も経済学を学んでいます。授業は、大人数講義のなかでわからなかった内容を少人数クラスの授業で質問できるようなシステムになっています。授業の映像も毎回アップロードされるので、わからなかった部分を見返せて便利です。

谷口: 私は教育学の授業を多く履修しています。授業は基本的にすべて英語ですが、学部によってはフィンランド語で開講されている授業もあるみたいです。

——非英語圏であっても英語での授業が中心なんですね。日常生活のなかで言葉の壁を感じたりすることはありますか？

小澤: 大学内は基本英語で通じるので特に問題はないです。ただ、街で買い物するときにはたまにドイツ語で話しかけられたりします。スイスは海外ルーツの人も多いので、見た目だけでは自分が外国人なのかスイス人なのかを判断できないみたいです。

谷口: 私も小澤さんと似たような感じで、基本的に大学では英語のみ使います。たまにフィンランド語で話しかけられることもありますが、わからない雰囲気を出すので英語に切り替えてくれます。

皆川: 自分の学んできたアメリカ英

語と、こちらのイギリス英語とで、思った以上にアクセントが違って聞き取りづらいということに驚きました。先生方は英語が第2外国語という人も多いため、授業は比較的聞き取りやすいです。

田川: 私もみなさんと一緒に、授業は基本英語、日常生活やサークル活動のなかで時々中国語を使うという感じです。ただ、台湾の人にとっては同じ東アジア人の自分は留学生に見えないので、最初から中国語で話しかけられることが多くて少し大変でした。

——他の日本人留学生との交流はありますか？

小澤: 普段はあまり交流がないのですが、熱を出してしまった時は日本人留学生に助けてもらいました。いざというときに頼れる相手がいるのはありがたいです。

皆川: 自分は周りに知り合いがいない状態でのスタートでしたが、それでも困ることはないかなと思っていました。ただ、しばらくして大学内に日本人コミュニティがあることを知り、集まりに顔を出すようにしてみたら、日本人コミュニティに限らない他の集まりとの接点もどんどん増えていきました。

谷口: 日本人留学生の数はそんなに多くはないですね。ただこちらでも日本の友達とLINEしたりSNSを



1



2



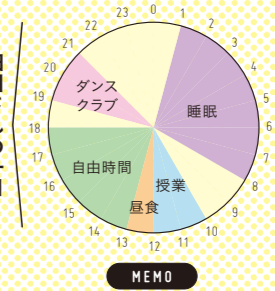
3



4

1: 自分が住んでいる寮。 2: 日帰りで旅行した「九份」。『千と千尋の神隠し』の舞台のモデルとして有名。 3: 講義棟。有名な半導体企業 TSMC にちなんで台積電 (TSMC Building) と呼ばれる。 4: 「台湾といえばタピオカ」というイメージ。どこでも売っていてとても安い。

田川さんの一日



MEMO

- ・自由時間は語学の勉強
- ・休日の午前はゆっくり寝る
- ・休日の午後は遊ぶか、たまに観光へ



①



②

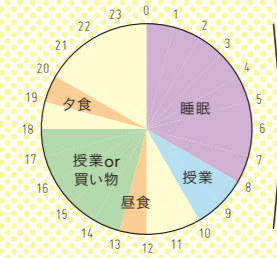


③



④

1: Makkara (ソーセージ) を焼く写真。フィンランドでは「BBQ = Makkara」らしい。 2: 日本食パーティ。同じ横国からの留学生と一緒に作り、ルームメイトに振る舞った。 3: 授業の様子。交換留学生と現地の学生が混ざって授業を受ける。 4: ルームメイトと夕日を観に行った写真。出身はドイツとフランス。



MEMO

- ・授業は週に10コマ
- ・土日はサウナとBBQ
- ・週に一度、Tandem (言語交換)に参加

見たりはしているので、日本人と話せなくてさみしいという感じではないです。

得られたものは留学を通じて

——日本とはまったく異なる環境に身を置いていると思いますが、留学先で暮らしてみても初めてわかったことや、意外に感じたことはありませんか？

谷口：国民性とくくっていいのかわかりませんが、日々交流するなかで「やっぱりヨーロッパの人は基本的に考え方が違うんだな」と感じることは多いです。あとはとにかく冬の寒さに驚いています。太陽も高くならないので空はずっとオレンジ色で、朝と夜だけがあるイメージです。

田川：台湾は逆に暑いですね。緯度は沖縄よりも南なので、感覚的には熱帯です。あとは新竹がとにかく風が強く、毎日台風並みの強風が吹いています。たしかに気象は現地に来てみるまでわからなかったポイントですね。

皆川：自分の場合、日々感じるのは「世界には本当に色んな人がいるんだな」ということです。事前のイメージだとなんとなく留学先ではイギリス人と交流するものだと思っていたんですが、実際にこちらで出会う人

たちは人種も国籍もさまざま。他の学部だと、授業に出てる人の8割がインド人だったりもするみたいです。なおかつみんな英語がばっちり話せるので、そこは本当に刺激を受けますね。

小澤：自分も、思ったよりアジア人が多いんだなとは感じました。同僚の人は留学生が多いんですが、アジア人が8割ぐらいです。もちろん大学の方にはヨーロッパ系の人もたくさんいますが、それにしても思ったより中国やインド、インドネシアの方が多いなと。

——良くも悪くも、留学前に抱いていた印象とは異なる現実に触れることができたんですね。そうした留学での経験を通じて、成長したなと思えることはありましたか？

小澤：当たり前ですが、こちらでは絶対に英語を話さないといけないので、言語に慣れる速度は格段に上がったなと思います。あとは、さまざまな地域出身の方と話すなかで、表面的な文化の違い以上に「考え方の違い」は大きいんだなというのも実感できました。「本音と建前」みたいな自分のなかに染みついた常識が全然通じなかったりすると、やっぱり驚きますね。

谷口：こちらの授業では話をただ聞くだけではなく、有益な意見を交換しあうことが求められます。私が日本で受けた教育のことなどをうまく話せれば、フィンランドでは貴重な

意見なのでみんなの学びにもなる。それがわかった時に、さらに英語力や思考力を磨きたいと思うようになりました。

皆川：留学してしばらく経ったころ、自分から動かないとコミュニティが作れないということに気づいて積極的に行動するようになりました。そうじゃないと本当に孤独になるし、時間も余ってしまうので。

田川：それは本当に私も感じます。ダンスサークルに入る前は本当に時間が余ってしまっていました。あとは、こちらに来てから英語の勉強の「終わりのなさ」に気付きました。TOEICなら満点をとれば一旦終わりだと思うんですが、実際に現地で会話していると毎日のように新しい単語や表現に出くわします。それもあって、日本にいた時よりはずっと真剣に勉強するようになりました。

海外での学びを今後活かしたい

——留学を通じてそれぞれに学びや経験を蓄えているんですね。最後に、今後の目標などがあれば教えてください。

皆川：具体的な業種とか、日本企業か外資かとかはまだ全然決まっていませんが、できれば海外で働きたいなとは思っています。

小澤：僕は、特に留学や英語と関係する仕事に就きたいという希望はなく、興味のある業界をこれから探していこうかなと考えています。今は就活もオンラインでできるので、留学中でも選考を受けられるのは嬉しいですね。

谷口：私の場合は留年という形での留学なので、1年分猶予をもらったような気持ちで今後何がしたいのかを留学中にじっくり考えようと思っています。元々、教員を目指すか院に進学するかの二択で考えていたんですが、こちらでは一度教員になってから院に戻ったり、働きながら学生をしていたりする人も多いので、そういう選択肢もありなんだと学びました。

田川：私は海外に関わることを仕事にしたいなと考えています。ただ、海外に行くたびに「自分の性格は日本に合っているんだな」ということも多いので、日本を拠点にしつつグローバルな働き方ができる仕事に就きたいです。今はまだ2年生で、帰国後に3年夏のインターンが始まるので、留学期間のうちにもう少し具体的に考えられたらいいなと思っています。

——同じ「留学」でも、それぞれ持ち帰るものは違うんですね。本日は長い時間ありがとうございました！



①



②



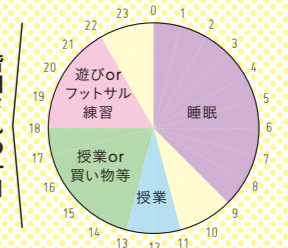
③



④

1: 近所の街並み。全体的に背が低く、レンガ造りの建物が多い。 2: 大学の中庭で行われたBBQイベント。 3: 大人数クラスの授業風景。 4: 700年以上の歴史があるお祭り「Goose Fair」。移動式遊園地が目玉。

皆川さんの一日



MEMO

- ・授業は週に10時間程度
- ・基本は寮のキッチンで自炊
- ・休日はフットサルの試合

いつから、どんな風に備える？ 留学準備ロードマップ

DIVE INTO THE UNEXPECTED WORLD. 02

語学試験に応募書類作成、ビザの取得など、何かとやることの多い留学事前準備。スムーズな留学のためには、いつから、どんな準備を始めればよいのでしょうか。「3年生の秋」に留学する想定ロードマップをまとめてみました。

2年次

may
5月

TO DO

情報収集



まずは情報収集から。留学先として選べる国や大学について調べながら、自分がどこで何を学びたいかを整理しましょう。本学主催の説明会への参加もおすすめです(5月頃)。卒業研究や単位取得、就活などの段取りについても忘れずにご調べをおきましょう。

october
10月

TO DO

応募



応募する留学先を絞り込んだら、授業支援システムを通じて仮登録・応募を行いましょう。また並行して、出願に必要な語学試験(TOEFL iBT®やIELTS等)の受験や、応募書類作成なども進めていきます。必要に応じて、奨学金の下調べも行っておくと安心です。

3年次

march
3月

TO DO

出願・各種手続き



出願後は、早めに学生寮への申込やビザ申請、パスポートの手配なども進めていきましょう。特にビザ申請は国によって手続きの内容やかかる時間が異なるので要注意。地域によってはワクチン接種が義務づけられているので、合わせて確認しておきましょう。

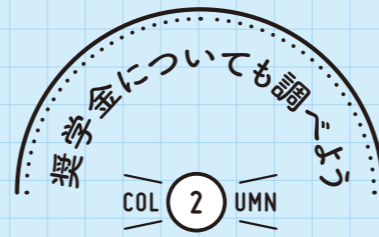
september
9月

TO DO

直前準備・出発



出発までの間に留学保険や海外旅行保険に加入し、必要なものを揃えましょう。生活用品以外では、万が一のためのクレジットカード、SIMカードなどもあると便利かもしれません。3年生の秋から留学する場合、就職活動もオンラインで行うことになります。スケジュールや段取りを確認しておきましょう。

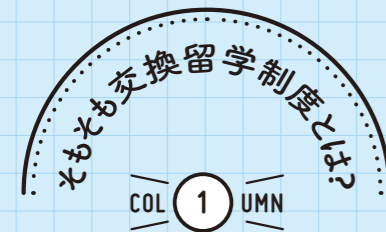


授業料や入学金が不要とはいえ、留学先によっては寮費や生活費、渡航費など、何かと費用がかかります。そこでありがたいのが奨学金です。奨学金によっては、募集期間が限定されているものもあるため、あらかじめ情報収集や手続きを行っておきましょう。ここでは代表的な奨学金を2つ紹介します。

JASSO海外留学支援制度(協定派遣)
一定の条件や成績評価要件を満たしている場合に申請可能な給付型奨学金。奨学金額は月額6~10万円ほど。

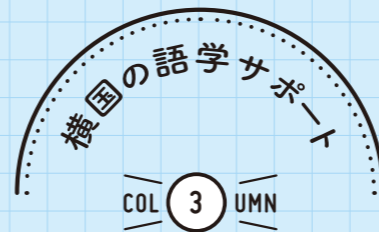
横浜国立大学学術交流奨励事業(交換留学派遣生奨学金)

JASSO奨学金採用者を除く希望者の中から、選考のうえ1人10万円(1回限り)を支給。



交換留学とは、本学と協定を結んでいる海外の大学・教育機関(約40か国140校以上)との間で、相互に学生を派遣しあう制度です。語学留学とは異なり、あくまでも協定校で「専攻分野について学ぶ」ことが目的となります。また、学籍は本学に置いたままとなる

ため、追加の授業料や入学料は不要です。単位についても条件を満たせば本学の取得単位にできるため、留年せずに留学したい方にはおすすめの制度です。応募のための基準はやや厳しめなため、交換留学を希望する場合は早めに準備を進めましょう。



交換留学には実際に「使える」語学が不可欠。本学には通常の授業以外にも、語学習得をサポートする仕組みが用意されていますので、ぜひ活用してみましょう。たとえば、お昼休みに開催される「トークタイム」では、留学生と

多言語で話す機会がもてます(詳しくはグローバル推進課へ)。また、英語学習用の書籍が揃った中央図書館3F「アクセスコーナー」や、英語自習システム「ATR CALL BRIX」なども、自習を手助けしてくれるでしょう。

困ったら訪ねてみよう

留学サポート団体・イベント紹介

DIVE INTO THE UNEXPECTED WORLD. 03

留学のための情報収集や語学学習をサポートする団体・イベントを紹介。
悩みごと・知りたいことが出てきたら、ぜひ気軽に足を運んでみましょう。

学生団体

サポート団体

学生団体

105

(いちまるご)

外国人留学生と話してみたい、
モチベーションを高めたい

外国人留学生のサポートに取り組む本学の学生団体で、現在は30名ほどのメンバーで活動中。ふだんは平日の12時から14時まで、国際教育センターの105スペースを開放して外国人留学生との交流を図っています。また、通常の交流以外にも定期的に交流イベントを実施しており、日本人学生にとってはさまざまな国からやってきた外国人留学生とコミュニケーションがとれる貴重な機会となっています。国を超えた交流は、海外留学へのモチベーションアップや、新たな視野の獲得にもつながります。興味のある方はぜひチェックしてみてください。



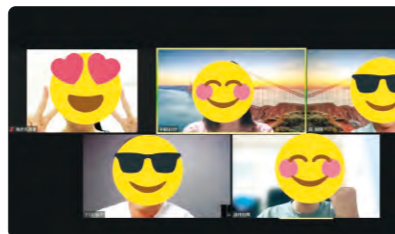
開催イベントの様子

En2

(エンツー)

留学に向けて情報収集したい、
語学を勉強したい

IELTS等の語学試験の勉強会、留学経験者による情報共有会などの企画を、月1、2回ほどの頻度で実施しています。コロナ禍の現在は、Discordなどのツールを使ったオンラインでのやりとりが中心です。また、留学経験者への取材を行い、note上で留学体験記を発信しています。この企画は、「留学に興味があるけど、情報を調べるのが大変でなかなか前に進めない」という横国生の不安を解消するために立ち上げました。毎回留学に興味のあるメンバーがインタビュアーを務めるので、留学したい方にとっては参考になる情報が詰まっています。ぜひご覧ください。



Zoomでの活動の様子



留学体験記 (note)

イベント

留学への一歩を踏み出すなら
YNU
インターナショナルウィーク

「留学には興味あるけど、何から始めたらいいのだろう」という人におすすめしたい、毎年5月と10月に行われる大学主催の留学イベント。数日間にわたって留学説明会や交流イベントが開催されます。参加すればきっときっかけが得られるはずです。

Event.1

交換留学/
TOEFL試験説明会

留学に向けた心構えや準備の流れ、TOEFLの概要をグローバル推進課の職員がレクチャー。



Event.2

交換留学生による
協定校紹介

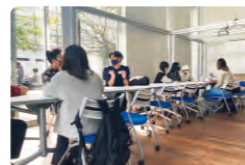
各国の協定校を紹介するポスター展示。各協定校からの留学生に話を聞くこともできます。



Event.3

交換留学生と
TALK TIME

交換留学生と気軽に会話を楽しめるイベント。外国語を使ってみたい人にもおすすめです。



YNU PEOPLE



挑戦し続ける
横浜国立大学の「人」。

横国が誇る研究者をクローズアップする、〈YNU MAESTRO〉。
学生たちのベンチャー精神に迫る、〈VENTURE SPIRIT〉。
インタビューを通じて、横国の「今」をお届けする。

YNU PEOPLE

YNU PEOPLE

複雑な現実に向き合う知恵を シミュレーションゲームで磨き上げる。

国際社会科学研究院 教授

田名部 元成

TANABU Motonari



「人間の判断」を ゲームによって捉える

まじめなビジネスの現場からは最も遠い存在に思える「ゲーム」。しかし「いくつもの要素が複雑に絡み合う経営という事象を理解するのに、ゲームほど適した道具はない」と語るのが田名部先生だ。

専門とするのは「シミュレーションゲーム」の経営や人材育成への活用。軍事や経営など、特定の現象を模倣的に再現してプレイできるのがシミュレーションゲームの特徴だが、特に「人間（プレイヤー）の判断」が結果を左右するところに、ゲームならではの面白さがあるという。

「単に『シミュレーション』と言ったら、たとえば『くしゃみをしたら飛沫がどう分散するか』のように、入力から結果を模倣的に自動計算するものを思い浮かべますよね。これがシミュレーションゲームになると、入力の際に人間の判断とアクションが加わります。なので経営のように複雑な事象を扱うときに、人間がどのように意思決定し、それでどんな結果が生じるのかを実験できるんです」

利害関係を乗り越える 「接着剤」に

もともとシステム科学を専攻し、情報技術を活かして経営者の意思決定をサポートする研究に取り組んでいた田名部先生。当時課題に感じていたのは、適切な情報処理を行うシステムの開発それ自体よりも、そのシステムを適切に組織に導入してもらうことの難しさだったという。

「既存の組織に新しい仕組みを導入しようとすると、必ずさまざまな利害や制度、慣習の壁にぶつかります。わかりやすいところでは営業部門と開発部門の壁だったり、経営層と現場の壁だったり」

合意形成を省いて新たなシステムを入れようとしても、結局はきちんと活用してもらえなくなる。では、異なる利害をもつ人々の間にどのように共通理解を作ればいいのか。そこで田名部先生が着目したのがシミュレーションゲームだった。

「ゲームって、自分の動きだけでなく他人の動きも考えないと勝てませんよね。あるお店を成功させる経営シミュレーションゲームなら、仕入れ部門から販売部門、あるいは競合他社のことも考慮しなきゃいけない。それをみんなでプレイしていると、だんだんと『君たちはこういう風に考えてたのね』と相手のことがわかってきたりするんです」

ゲームは「接着剤」だと、田名部先生はいう。ここに活路を見出し、実際にビジネスを体験できるシミュレーションゲームシステム「Yokohama Business Game (YBG)」を自ら開発した。その後も改良を重ねたそのシステムは、現在150の教育機関で利用されている。

ユーザー自身が 新たなゲームを開発できる

YBGの大きな特徴は、ゲームをプレイできるだけでなく、ユーザーが自由にゲームを「開発」できる点にある。売上や原価、利益などが生まれる仕組みを文章化・数式化して入力すれば、それだけ

で特定の業界のビジネスを再現するシミュレーションゲームができあがる。実際に田名部先生が教えたある高校では、生徒たちが塾講師やアーティストといった身近な業種を例に、ビジネスモデルをゲームに落とし込んでいったという。

「あるビジネスをもとに自分でゲームを作るためには、そのビジネスの構造を理解してモデル化する必要があります。その過程自体が、学習者にとっては大きな学びになりますよね」

プレイによる学びから、制作による学びへ。進化を続けるシミュレーション&ゲーミングの領域だが、田名部先生はさらにゲームと現実を連動させていきたいという野心を持っている。

「制度設計や社会実験みたいなものもゲームで行えたらなと。最近メタバースが注目を集め始めていますが、似たようなイメージで現実に近いシミュレーション空間を作り、そこで新たな制度を模擬実装してみる。いまいちだったら修正して、いい感じだったらそのまま現実に反映してしまえばいい。どんな制度や法律が欲しいかについての合意形成もゲーム内で行えれば、市民の声がもっとスピーディに現実に反映される。そんな社会ができればいいと思うんですよ」

PROFILE

青森県出身。専門は情報システム学、シミュレーション&ゲーミング。シミュレーションを通じて経営や意思決定を学べるシステム「YBG」を開発。近年では、データマネジメント教育の実践研究にも取り組む。一般社団法人経営情報学会会長を務めるほか、情報処理学会情報システム教育コンテスト (ISECON2015) 最優秀賞受賞など受賞多数。

3 KEYWORDS

田名部先生をひもとく3つのキーワード

1



ゼミでは、プログラミング言語も学ぶ。

2年生のゼミでは、Pythonなどのプログラミングを学ぶ。「といつつ、プログラマーになって欲しいわけではないです(笑)」と語る田名部先生。あくまでも大事なのは、「思考のツール」としての情報技術なのだそう。

2



ユーザーが「ゲームを作る」システムを独自に開発

田名部先生が開発に携わったゲーム開発支援システム、通称YBG (Yokohama Business Game)。日本語でコードを入力するだけでゲームが生成できるので、プログラミングの知識がなくてもゲーム開発を体験できる。

3



学びにとって大事なのは、クリアよりも「振り返り」

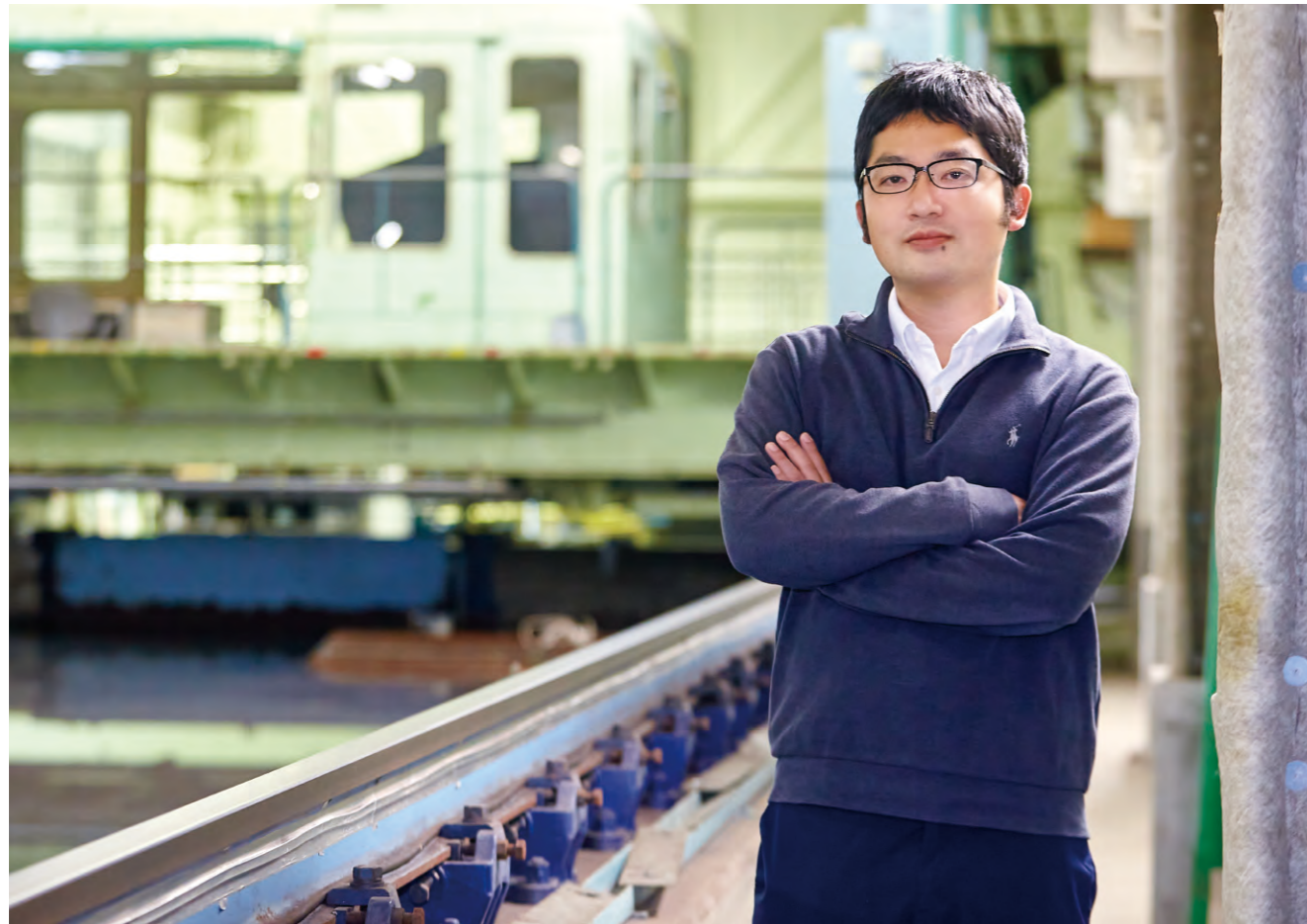
YBGを活用すれば、高校生でもゲームを通じて経営を学ぶことができる。「大事なのはプレイに熱中した後のデブリーフィング、つまり振り返りです。一度自分でプレイしているからこそ、ディスカッションにも熱が入るんでしょうね。」

システムので描く、 より良い未来への航海図。

工学研究院
システムの創生部門 准教授

満行 泰河

MITSUYUKI Taiga



歴史ある造船大国・日本を 世界に返り咲かせるために

長きにわたり世界一の造船大国として名を馳せてきた日本。しかし近年は諸外国が台頭し、造船シェアでは世界3位に甘んじている。この現状に「システム」の力を持って挑んでいるのが満行先生だ。

「航行や造船はまだアナログな世界。それを効率化する仕組みがあれば、より競争力を高められるのではないかと。そう考え、DXに取り組み始めました」

目下のテーマは、船舶の自動運航。リアルタイムに取得する運航データから船の動きを予測できれば、最適な運転を意志決定しやすくなるのだという。

「船舶事故の多くはヒューマンエラーが原因ですので、まずは事故防止が期待できます。乗組員も削減でき、ゆくゆくは遠隔操作で無人船を運行できるかもしれない。操舵室すらない船を作るといふ、未知の領域が待っているのです」

造船現場の改善も図る。例えば「撓鉄（ぎょうてつ）」という作業。大きな鉄をガスバーナーで熱しながら、図面に沿って複雑な形状に加工するものだが、気温や天候、鉄の性質によって、その都度曲がり具合が変わってくる。熟練の職人技術に頼らざるを得ない、属人性の高い繊細な作業だ。満行先生はこの工程の自動化に挑戦。鉄をレーザースキャナで計測し、バーナーで熱する箇所をコンピュータで指示するシステムを考案した。

「船は受注生産の一点ものですから、すべてを自動化することはできません。

ただ、人の手をサポートして、属人性を下げることではできるとは思うんです」

合言葉は「誰でもできる撓鉄」。実用化はもう間近に迫っている。

学問を横断して挑む カーボンニュートラル2050

旧来の現場におけるイノベーションを模索する一方、道なき道を切り拓くアクションにも取り組む。2050年のカーボンニュートラル達成に向けた活動だ。

「政府によってゴールが示されたものの、それに向けたロードマップやビジネスモデルには不確定な点が多い。2050年まで現役で携われる私たち世代が主体となって挑んでいく必要があります」

満行先生が取り組むのは、大きく二つ。海面に風力発電装置を浮かべて発電する「浮体式洋上風力発電」の普及に向けた戦略づくりと、台風を巨大なエネルギー源として活用する「台風発電船」の研究だ。技術開発して終わりではなく、社会実装という難題も控えている。

自然現象を活用するエネルギーは、裏を返せば、自然に左右されてしまう。台風が起これなければ発電もできない不確定な仕組みは、果たして生活を支えるインフラになり得るのだろうか。

「技術を形にするだけでは不十分で、それが実現した先の世界そのものをデザインする必要があります。これからどんなエネルギー社会を作っていけばいいのか。それを考えるためには、理学・工学分野のみならず、人文社会学や法学など多角的な視点が求められます。最高峰の

技術を持った本学の研究者たちと協働し、今まさに模索している最中です」

人の役に立ちたい 研究でより良い社会を目指す

大学でシステム系の学部を選んだのは「将来像が定まらなかったから」と振り返る満行先生。ひとまずシステムという手段を学び、それで何をやるのかは後から考える算段だった。転機は、在学中に訪ねた造船所での、巨大な船との邂逅だ。

「一目で『でっけえ、すげえ』と（笑）。造船は自分一人ではとてもできないことだし、大きなものを集団で作るのはお祭りのようで楽しそう。同時に自動化が最も進んでいない業界のひとつと言われ、その職人技の世界にも惹かれました」

その後も社会福祉の領域に携わるなど、柔軟にフィールドを変えてきた。一貫しているのは「困っている人の役に立ちたい」という思いだ。

「目の前の人に『やって良かったな』と思ってもらえるのがモチベーションです。まず旗を立てて目標を定め、みんなで楽しく問題解決しながらそこへ向かっていく。それが私にとっての研究です」

PROFILE

宮崎県出身。専門はシステム工学、設計工学。博士課程進学後にテーマを大きく変更、その後も関心に応じて研究テーマを柔軟に変更している。現在のテーマは船舶海洋工学で、現場のさまざまな課題解決や長期的な問題解決のために研究に取り組む。令和3年度ベストティーチャー賞受賞。

3 KEYWORDS

満行先生をひもとく3つのキーワード

1



学生から刺激を受けながら、常にアップデート。

「学生や若い人たちと一緒に、ガッツで取り組むのが私のスタイル。学生からの刺激がないと研究活動ができません」と語る満行先生。研究室もオンライン化が進んでいるが、学生とチャットで議論を深めている時間が長いそう。

2



日本の造船史を物語る、船舶模型の数々。

「造船8大学」の一つである横浜国立大学は、船舶工学の歴史的資料も数多く収蔵。研究室のある船舶海洋工学棟には、山下公園に停泊する氷川丸、みなとみらいの第二日本丸をはじめ、過去に学生が制作した船舶模型も保管されている。

3



造船所のものづくりをDXでサポート

満行先生の研究のルーツでもある造船所。写真は、ものづくり現場の調査のために訪れた「下ノ江造船所」（大分県）。現状のものづくりの状況を踏まえ、カイゼンを実施したり、DXのための共同研究の相談などを行ったりしている。

創作ダンスの真髄は、 ひとつの主題をチームで表現すること。

創作ダンスを専門とするモダンダンス部。

昨年同部は第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバルにて、全国ベスト4に相当する「神戸市長賞」を受賞した。ダンス作品の制作は、まさに探究の連続。その過程を、部の中心メンバーである今中さんと外山さんに伺った。

教育学部 学校教育課程
人間形成コース 心理発達専攻 3年

今中 彩乃

IMANAKA Ayano

教育学部 学校教育課程
教科教育コース 英語専門領域 3年

外山 陽大

TOYAMA Haruhiro



テーマの表現をめざす創作ダンス

ヒップホップやバレエ、古典舞踏などとは異なり、創作ダンスには定型な振り付けや動きがあるわけではない。それに取り組むダンス部の面々は、伝えたいテーマにふさわしい表現を探究しながら作りあげていくことになる。テーマに沿ったような展開や構成の開発、衣装製作、

振り付けなどを、すべて一から作り上げていると、部長の今中さんは語る。「テーマ性が強いという点が創作ダンスの特徴です。楽曲に合わせてうまく踊るといふよりは、何を表現するかが大事になります。『格好よかった』という感想で終わらずに『こういうテーマを伝えたいのか』と考えてもらえる作品を作ろうと意識していますね」

中高一貫校で6年間創作ダンスを経験した今中さんは、大学でもダンスを続けたいと考えていた。部の過去作品や受賞歴を調べ、「自分もこの大学の作風で踊りたい」との思いで本学を志望した。一方、大学から創作ダンスを始めた部員もいる。今回の受賞作でも重要なポジションを担った外山さんは、中学校までヒップホップダンスをやっていたものの、

創作ダンスは未経験だった。

「受賞作では、3名いる制作者のうちの一人を僕が務めました。決まった正解がなく、どこまでも追求できてしまう創作ダンスにおいて、舵取り役は重要です。部員の意見を取りまとめながら、ひとつの作品を作り込んでいきました」

「軽さ」のテーマを掘り下げ、 ジャコメッティにたどり着いた。

制作はテーマ設定から始まるが、テーマはどんなものでもよいのだという。日常的な動作から出発してもいいし、小説や芸術作品をモチーフにしても構わない。では、今回の受賞作「I〜アルベルト・ジャコメッティの彫像にみる〜」は、どのような経緯で選ばれたのだろうか。

「当初のテーマ候補は小説『存在の耐えられない軽さ』でした。でも、「軽さ」をダンスで表現するのがどうにも難しく。そんなとき、部員の誰かがヒントとしてジャコメッティの彫刻作品を挙げてくれたんです。その体躯の細さや脆さ、『細く削られても屹立を続ける人間の姿』が重要なモチーフに感じられ、最終的には小説ではなくジャコメッティをテーマに据えることにしました」

ジャコメッティをダンスで表現することで、人間の本质に迫れると思ったという外山さん。今中さんも続けて言う。

「テーマを理解するために、自分自身が傷ついた経験や親との喧嘩をあえて思

い出し、メンタルが『削られる』様子を回想したりもしました。目に見えない心の動きを表現につなげるには、自分なりに咀嚼することも大事なかなと」

動詞の言葉が導く 振り付けや衣装の探究

テーマが決まると「動き出し」のプロセスが始まる、と外山さん。

「連想される『動き』を各自が考えます。バキバキした動きなら細さや脆さを表現できそうだね、とか。そうして徐々に作品の流れを構成していきます。このとき、自分たちは動詞の言葉を大事にします。ジャコメッティであれば、『削る』や『削ぐ』などの動詞です」

イメージを豊かにしながら、動きと言葉をつなげていく。この作業は衣装製作にも通ずると、今中さんは楽しげに語る。

「今回の衣装には、建築模型や絵画のための下地剤を用いています。これを布につけて乾かすと、腕を揺らす振り付けに合わせて、ザラッとした大きな音が生じるんです。まさに『削る』を連想させる音だねとみんなで盛り上がりました」

衣装は毎回、そんな風に作品ごとに模索しながら手づくりしている。創作ダンスの魅力は、振付に限らず、いくらでも作り込める要素をもっていること。外山さんがまとめてくれた。

「創作ダンスの良さって、各部員が自分にできる特技や動きを活かす余地があ

ることだと思えます。それに、踊りに関わらなくても衣装や音楽、小道具などでアイデアを出す関わり方もある。ほかのジャンルのダンスと大きく異なるのは、そこかなと思っています」

全国大会常連の名門、
モダンダンス部
1983年創部のモダンダンス部は、アットホームな雰囲気でありながら、数々の大会で受賞経験をもつ名門。週4日、体育館2階ダンス場で活動する。OBにダンスカンパニー「コンドルズ」主催の近藤良平氏ら。



1 「神戸市長賞」受賞時の作品「I〜アルベルト・ジャコメッティの彫像にみる〜」に因んだポーズ。 2 部員たちの集合写真。 3 大会へ向けた練習の様子。 4 題材研究の一環で美術館へ。

MY MEMORY

歴史好きの学生起業家を作り出す 観光と地域と教育のつながり。

観光地で無料の音声ガイドを聞くことができるスマホ用 Web アプリ「GURURI」。その開発を手がけたのは経済学部学生起業家、中野賢伸さんだ。いまや大河ドラマ視聴者や歴史好きから人気を博すこのアプリは、どのようにして開発されたのか。そのきっかけと創業秘話を伺った。

経済学部 経済学科 4年

中野 賢伸

NAKANO Kcshin



こだわったのは、「人の声」によるナレーション

「GURURI という名前をつけたのは、利用者の方にさまざまな場所を訪れてほしかったからです。メジャーな観光地だけでなく、マイナーだけど魅力あるスポットもぐるっと回って欲しいなと中野さんがもともと関心を持っていた

のはオーバーツーリズムの解消だ。たとえば鎌倉などでは、特定の有名な観光地に人流が一極集中してしまい、交通機関の混雑や渋滞といった問題が生じており、一方で周辺地域との観光客数や消費額の差は広がっている。誰もが知る観光地の周辺には、あまり知られていないが魅力的な観光資源が数多く眠っているはずだ。そう語る中野さんの表情には、歴史好き

の一面が浮かんでいる。

「もともと父の影響で史跡めぐりが好きだったんです。たとえば城下町を歩いているときに道沿いで古めかしい酒屋さんなどを見つけると、いつから続いているんだろうとつい考えたり。こういった身近なところにも歴史の魅力を感じます」

GURURI の開発において、特にこだわりが光るのは「人の声」によるナレー

ション。アプリは基本的にすべて自分たちで制作しているが、唯一外注しているのがこの音声ガイドの部分だという。もちろん自動音声の方が収録も簡単でコストも安い。それでも、実際にボランティアガイドの方が案内してくれているような風情を再現したかった。自らが観光好きの中野さんならではのこだわりだ。

創業を後押しした授業と支援プログラム

GURURI を開発後、そのまま在学中に起業した中野さん。開発の経緯はどのようなものだったのだろうか。

「最初のきっかけは、2年生の頃に参加した企業主催の学生起業支援プログラムです。ここで専門家の方のサポートを受けながら、GURURI の核となるアイデアを練り上げていきました」

GURURI のアイデアはなんとコンペで入賞。受賞後は実際に形にするべく、すぐに知り合いを辿って4名の仲間を集め、アプリ開発に注力した。半年ほどかけてリリースにこぎつける一方で、地方自治体への営業も並行して行った。このころから起業を視野に入れるようになり、本格的にビジネスを学び始めた。

「そのころ、たまたま経営者の方がゲスト講師を務める授業を履修していたんです。そこであるゲストの方がインターンを募集しているのを知り、1年間インターンで修行を積みました」

他にも、学内発のベンチャー支援制度なども活用しながら、開発や営業と並行して着実に力をつけていった中野さん。アプリ開発から1年ほど経ったタイミングで、思い切って起業に踏み切った。

「提携先が増えるにつれ、親も『もうちょっと事業続けてみたら?』という雰囲気になっていきましたね(笑)」

地域に教育にと、GURURIはさらに拡大する

さらなる発展のために、提携スポットの追加やユーザー獲得を進めていきたいと中野さんは語る。目下取り組んでいるのは、神奈川県内の提携先の開拓だ。

「今は横浜銀行さんの地域振興担当の部署と連携し、神奈川県は宮ヶ瀬へのアプリ導入を行っています」

教育分野にも開拓の余地がある。自治体と連携し、修学旅行生向けのコンテンツを提供し始めたのだ。

「みなとみらいには開港や明治維新の史跡があって、修学旅行生がよく訪れるスポットになっています。アプリ片手に生徒に街歩きをしてもらえるように、学校側が選ぶ修学旅行のプログラムメニューに組み込んでもらうことになりました。自治体がまとめた歴史学習の情報もアプリに組み込んだので、みなとみらいエリアだけでも50箇所ほどの史跡をガイドできるようになっています」

歴史を若い世代につなげる役割を果た

耳で楽しむガイドアプリ「GURURI」

GURURIの最大の魅力はこだわりの音声ガイド。QRコードさえ読み込めばいつでもどこでも使用できるのが特徴だ。「現地だけでなく音声ガイドを聞けるので、観光の予習に使う方もいらっしゃるようです」

すこと。それが中野さんのビジョンだ。「僕の父やその上の世代には歴史好きな人がいます。いっぽう、周りの同世代で史跡めぐりをする人はほぼいない。GURURIを通じて、老若男女幅広い人たちに歴史の魅力を知ってほしいですね」



- 1 「GURURI」のアプリ画面。ダウンロードなしで使える手軽さが魅力。
- 2 観光案内所などにQRコード付きのポスターやチラシを置いてもらっている。
- 3 開発のきっかけとなった、幼いころからの趣味である史跡めぐり。
- 4 関係者や協力企業に説明するためのプレゼン資料。

MY MEMORY

部活の夢も、将来の夢も掴みたい。 硬式野球部で歩んだ、文武両道の4年間。

2021年秋、神奈川大学野球の2部リーグ戦で優勝に輝いた横浜硬式野球部。
さらに入れ替え戦にも勝利し、晴れて上位6校が所属する1部リーグ入りを果たした。
この躍進をマネージャーとして支えながら、教員を目指し学業にも打ち込む八木航平さんに話を伺った。

教育学部 学校教育課程 4年

八木 航平

YAGI Kohci



「会話量」を武器に 1部リーグの座を奪還

4学年で総勢100名以上。硬式野球部は、横浜国立大学でも屈指の規模を誇る部だ。八木さんは、マネージャーとしてこのチームを4年間支えてきた。

「率直に言うと、強豪の私立大学とは違って、甲子園球児が大勢集まるようなチームではありません。でも、団結力だけはどこにも負けない。ベンチからスタンドまで一丸となった応援は、時に対戦相手を圧倒することもあるんです」

2019年秋には神奈川大学野球の2部リーグに降格、2020年には新型コロナウイルス感染拡大による活動制限。そんな試練を乗り越え、2021年秋に見事1部リーグに返り咲いた。

「2部で勝つのではなく、1部を目指す。でなければ現状維持で終わってしまう。当時の主将がよく言っていました」

どのようにして1部昇格の力を手にしたのか。「チーム内の会話量を増やした」ことが鍵だったと八木さんは語る。

「気づきを共有し合い、弱点の克服に役立てられた上に、仲間が何を思い、どう頑張っているかもわかるようになりました。互いに触発され、これまで以上に切磋琢磨する土壌が作られたんです」

そして迎えた2021年の秋季大会。本学は着実に勝利を重ねていった。悲願の1部リーグ入りを勝ち取ったその瞬間は、

仲間たちと泣きながら喜んだという。

「間近に見てきた先輩たちの努力が報われたこと、1部リーグでプレーできること。たくさんの喜びと感動が入り混じった、忘れられない出来事です」

影に日向に選手を支える マネージャーはチーム運営の要

実は、かつてはグラウンドに立っていた高校球児。しかしケガ（動作障害）に悩まされ、思うようなプレーができなくなっていた。「高校の部活を引退したら、野球から離れるつもりだった」と明かす。

「でも、いざ引退すると、野球への情熱を再確認して。大学ではマネージャーとして野球に関わろうと決めました」

マネージャーは、チームの運営やサポート全般を担う。言葉にすると簡単だが、仕事内容は驚くほど幅広い。部の内外の連絡にはじまり、神奈川大学野球連盟での活動、データ収集、備品管理——部が円滑に活動するための仕事を一手に引き受ける。現在は9名のマネージャーで100人超の大所帯を支えている。

「私は練習場の手配や用具の購入、ネットの補修、折れたバットの修繕などを担当しています。選手だった経験を活かして、練習面のサポートをすることもあります。選手の頑張りを常に間近で見えていますから、彼らが結果を残せることが一番の喜びであり、やりがいです」

マネージャー業と学業 好循環で成長できた4年間

文武両道を掲げる硬式野球部の一員として、勉学にもまた励んできた。将来の夢は、小学校の教員。決して楽な道のりではないが、「部活に打ち込んだことが支えになり、勉強でも頑張りがきくようになった」と八木さんは笑顔を見せた。

「マネージャーはたくさんの仕事を同時並行でこなすので、チームはもちろん、自分自身をマネジメントする力もつきました。大学の課題なども、段取りをつけて効率よく取り組めるようになりました。監督や学内外の団体との連絡・折衝といったマネージャーならではの経験も社会に出てから生きてくると思います」

一方で、教科教育コースで専攻する家庭科の知識が野球部でのマネージャー業に役立つこともあるという。

「野球道具の補修や、食事面のアドバイスができるようになりました。部活と学業、それぞれの学びを相互に活かせる。文武両道の意義を実感しています」

充実した大学野球生活も残りわずか。万全な引き継ぎが、残された大仕事だ。

「マネージャー業務はチーム運営の基盤。先輩が安心して野球に打ち込めるよう、しっかり道筋をつけたいです。それから、卒業前に他のスポーツをしたり、旅行に出かけたりもしたい。豊かな知

識や経験を蓄えて、教科書だけでは伝えられない血の通った教育を行うのが目標です」

横浜国立大学硬式野球部
「人として組織として野球人として最大限成長できるチームであれ」を理念に掲げ、文武両道をモットーに活動。2021年度には神奈川大学野球の1部リーグ(上位リーグ)入りを果たし、2022年度も1部残留を勝ち取った。



1 苦楽を共にした硬式野球部の仲間と。 2 リーグ戦の一コマ。相手チームをたじろがせるほどの声援は、横浜野球部の持ち味の一つ。 3 ネット裏からプレーを見守りながら、スコアを記入していく。 4 2020年の緊急事態宣言中も、オンラインミーティングで密なコミュニケーションを保った。

MY MEMORY

横浜国大の名物授業!

「大学ならではの学びが味わえる」と、学生からも人気の高い先生方の「名物授業」。インタビューを通じて、面白さの秘密に迫ります。

ゲーム理論

授業名

人や組織の「かけひき」を論理的に読み解く。



授業内容について教えてください。

ゲーム理論は、さまざまな状況下における「かけひき」を詳しく分析する、経済学に必須の理論です。相手の行動を読みながら、自分にとって最適な一手を選ぶ。ここでの意思決定の仕組みを、ロジカルに読み解いていきます。この授業では、ゲーム理論における基本的な考え方を学ぶのがファーストステップ。続いて、市場分析や企業間の交渉といった場面に、どう応用されるか理解を深めます。

授業に対する学生の反応はいかがでしょう。

「授業ではわかったと思ったのに、宿題の問題が全然解けません」という声をよく耳にします。扱う理論のいくつかは、難しい数式や専門用語を用いずとも説明がつかますから、大枠は直感的にとらえられるかもしれません。しかしそこで「理解できた」と早合点せず、思考力と計算力を駆使して問題に取り組むことが大切です。授業で扱うのは「寡占市場での企業の戦略」といった経済学ならではのケースが中心ですが、私たちは日々あらゆる場面でお互いの行動を読み合っています。ゲーム理論を学ぶことで、身の回りの現象がどのような理屈で起きているのかを論理的に理解し、説明できる力を育ててほしいと思います。



氏名 佐野 隆司
SANNO Ryuji
所属 経済学部 / 国際社会科学研究院 准教授
専門 ゲーム理論・メカニズムデザイン

授業に興味をもってもらうために、コロナ禍における行動変化など、時事的な話題も取り上げています。演習課題ではかなり高度な問題を忍ばせたりもしますが、そういった難問にも食らいついて解いてくれると嬉しいですね。

感覚知覚システム論

授業名

「見る」仕組みが分かれば新しい世界も見えてくる?



授業内容について教えてください。

私たちの身の回りにある「見て・聞いて・触れるもの」は、どれも利便性や快適性に重きを置いて考案されています。ここで人に優しいモノをつくるために必要なのが、人の感覚や知覚の理解と、工学的に応用するための方法論。私の授業でフォーカスするのは、感覚知覚の分野で最も研究が進んでいる「視覚」です。目は外界の光からどのように色や物体を捉えているのか。情報学や物理学のほかにも、心理学や生理学などの観点から、感覚知覚の基礎知識を学ぶほか、工学における実践例に触れます。「視覚」がテーマですから、アニメーションや色鮮やかなスライドを多用した「ビジュアルな講義」を心がけています。

授業に対する学生の反応はいかがでしょう。

誰もが日常的に経験している「見ること」を扱っているため、初めから興味をもってくれる学生が多いようです。「自分の脳がこんな風に機能しているのか」と分かり、感動する学生もいます。新鮮な驚きや面白さを感じながら学んでもらい、工学のフィールドで活かす糸口をつかんでほしいです。人の感覚知覚に関する知見が、スマホや自動車などさまざまな分野で活用されていることを理解してもらえればと期待しています。



氏名 岡嶋 克典
OKAJIMA Katsumori
所属 理工学部 / 環境情報研究院 教授
専門 人間情報学

人の脳のレベルを目標に開発が進められている人工知能(AI)。すべての人にとっての「使いやすさ」を追求するユニバーサルデザイン。これらのさらなる発展には、「視覚」や「脳」についての知識が不可欠です。この授業を通じて、人の脳の奥深さや素晴らしさを感じてもらえたらと思います。

現代ポピュラー文化論演習

授業名

よく見るアニメが文化を知るための「教材」に?



授業内容について教えてください。

アニメを題材に、ジェンダーや人種、社会問題などさまざまな課題を英語で討論する授業です。特長は留学生との合同授業であること。日本人同士では得られないグローバルな視野をもって、アニメを考察していきます。例えば日本のアニメにおけるキャラクターの演出。「怒ったときに頭に現れる血管のマーク」や「セクシーな女性を見て鼻血を流す男性」といったデフォルメ調の表現は、漫画での描写がルーツです。海外ではこういった表現はなく、初見の方では意図がつかめません。ひとつのアニメを見ても、同じ解釈ができるとは限らないわけです。

授業に対する学生の反応はいかがでしょう。

日本人学生からは「自分の思いを伝えるのが大変だった分、英語力が向上した」「海外の考え方に触れて視野が広がった」といった意見が多いです。留学生からは「日本人学生と交流する機会が少なかったから、趣味のアニメを題材に話し合えて楽しい」という声も。昨今の大学生は国内外を問わず、アニメや漫画、ゲームなど豊富なポピュラー文化に親しみながら育った世代。普段は娯楽として何げなく楽しんでいるアニメを身近な題材として、社会を考察するきっかけにしてもらえたら嬉しいですね。



氏名 須川 亜紀子
SUGAWA Akiko
所属 都市科学部 / 都市イノベーション研究院 教授
専門 ポピュラー文化論・オーディエンス研究

海外では、日本の漫画やアニメ、実写映画から影響を受けた作品もどんどん生まれています。価値観が多様化している現代だからこそ、文化を国際的な視野で考えるリテラシーを育ててもらえればと思います。

特色ある教育プログラムを紹介

本学が誇る、ユニークな学部教育プログラム。
今回は2021年にリニューアルした教育学部の学校教員養成課程と、都市科学部の4つの特色ある学科についてご紹介します。

教育学部
都市科学部

Education / Urban Sciences

教育学部

14の専門領域からなる
教職プログラムで、
地域の教員養成の中核を担う

神奈川県内の国立大学で唯一教職課程を持ち、地域の教員養成において中核的な役割を担う本学の教育学部。その強みをさらに伸ばすべく、2021年4月には教育組織を改編、課程名称を「学校教員養成課程」に変更しました。課程は3つのコースと14の専門領域から編成されており、さまざまな分野の内容に触れながら、関心に応じて自身の専門領域を選べます。

学校教員養成課程

1年生から教育現場に足を運び、「理論と実践」を往還する

横国の教育学部の魅力は、1年生の秋から学校現場に行き、教師の方々からお話を伺えることです。私自身も現場を見学するなかで、高校までの「教わる」側の意識から、「教える側」の意識へと徐々に切り替わっていったのを感じています。

研究や実験の内容が充実していて、まず自分自身が楽しんで学べる環境があることも、子どもたちに学ぶ楽しさを伝えるうえで役立ちます。実際に、私が教育実習先で植物の野外観察を実施した際には、大学で「フェノロジー観察」という生物学の演習を受けた経験が活かされました。子どもたちにもただ「覚える」だけでなく、目や手を動かしながら「考える」ことを大事にしてもらったかったので、この経験は手応えと自信に繋がりました。

教育学部の先生方によるオムニバス形式の講義「里山でつなぐESD考」では、実践形式で地域と自然、文化の関わりを学べます。この授業で得られる経験は、自分が教員になった時に、学校と地域との関わりを考える上できっと

役に立つはず。授業の技術を得るだけでなく、広い視野と見識を持った教員を目指したい方には、ぜひ本学の教育学部をおすすめします。



教育学部 学校教育課程
教科教育コース 理科専攻 4年

吉田 涼香
YOSHIDA Ryoka



Education

都市科学部

領域横断的な4つの学科で、
あるべき「都市」の姿を考え抜く

都市社会共生学科

都市に生きる人と文化の関わりを問う

都市社会共生学科で学べるのはおもに人文社会系の学問で、特に応用的な内容を学ぶ4つのスタジオ（社会分析、社会文化批評、文化創成、海外研究）ではそれぞれの関心を深く掘り下げられます。自分が所属しているのは、精神分析やサブカル批評を学ぶ「社会文化批評スタジオ」と各自のテーマで調査を行う「社会分析スタジオ」で、現在は「恋愛」×「都市」をキーワードに自分なりの学びを深めています。他の学生も、自ら芸術や制作に取り組んだり、フィールドワークをしたりと、関心は人によって本当にさまざま。学問分野を超えて「自分の問い」を見つけるには絶好の環境です。



都市社会共生学科 3年
鳥越 敬太
TORIGOE Keita



都市基盤学科

社会を守り支える「土木」の知恵

都市基盤学科では、生活インフラを支える「土木」について学びます。自分自身は東日本大震災を機に、自然の脅威を最小限に留める土木の分野に関心を持つようになりましたが、大学で学ぶうちにその幅広さと奥深さに改めて気がきました。本学科のカリキュラムでは、時に大学を飛び出して現場を見学したり、実験を行ったりすることもあります。学んだ知識が社会でどのように活用されているのか。土木工事を目にするたびに、目的や環境に合わせて工夫された施工について自分自身で考えるようになりました。都市基盤学科では土木を軸として多角的な視点で社会を捉えています。



都市基盤学科 4年
小俣 勇斗
OMATA Yuto



建築学科

建築と都市の相互関係を捉える

建築は単体で存在するものではなく、周りの都市や地域と相互に影響を与えあっています。こうした「まち」の視点からも建築を考えるのは、都市科学部に属する建築学科ならではの学びです。建築の分野を専門的に学ぶカリキュラムも充実しており、3年後期からは計画・構造・環境・デザインの4分野から1つを選んで、より専門的な課題に取り組みます。私は「環境」分野でベトナムの住宅を対象とした室内温熱環境と居住者の快適性に関わる研究をしており、現地での実地調査も行いました。都市が抱える課題に対して建築による克服を考えるのも、本学科の特徴です。



建築学科 4年
真山 遼悟
MAYAMA Ryogo



環境リスク共生学科

自然環境と人間社会のバランスを見極める

環境リスク共生学科は、自然環境と人間社会の関わりについて、文理融合的なアプローチで学べる学科です。陸上生態系、植物、水圏生物、古生物、地学、地域経済学、環境安全化学、気象学、都市防災学といった幅広い分野の個性豊かな先生方がおられ、講義を通じて、1つの社会問題や環境問題に対して多くの視点から物事を考えられるようになります。また、学生数に対して先生方の人数が多く、学生と教授の距離が近いことも特徴です。教授と学生数人で山や湖でフィールド調査に行くこともよくあり、少数精鋭でフィールドに出ることが好きな学生にはピッタリの学科です。

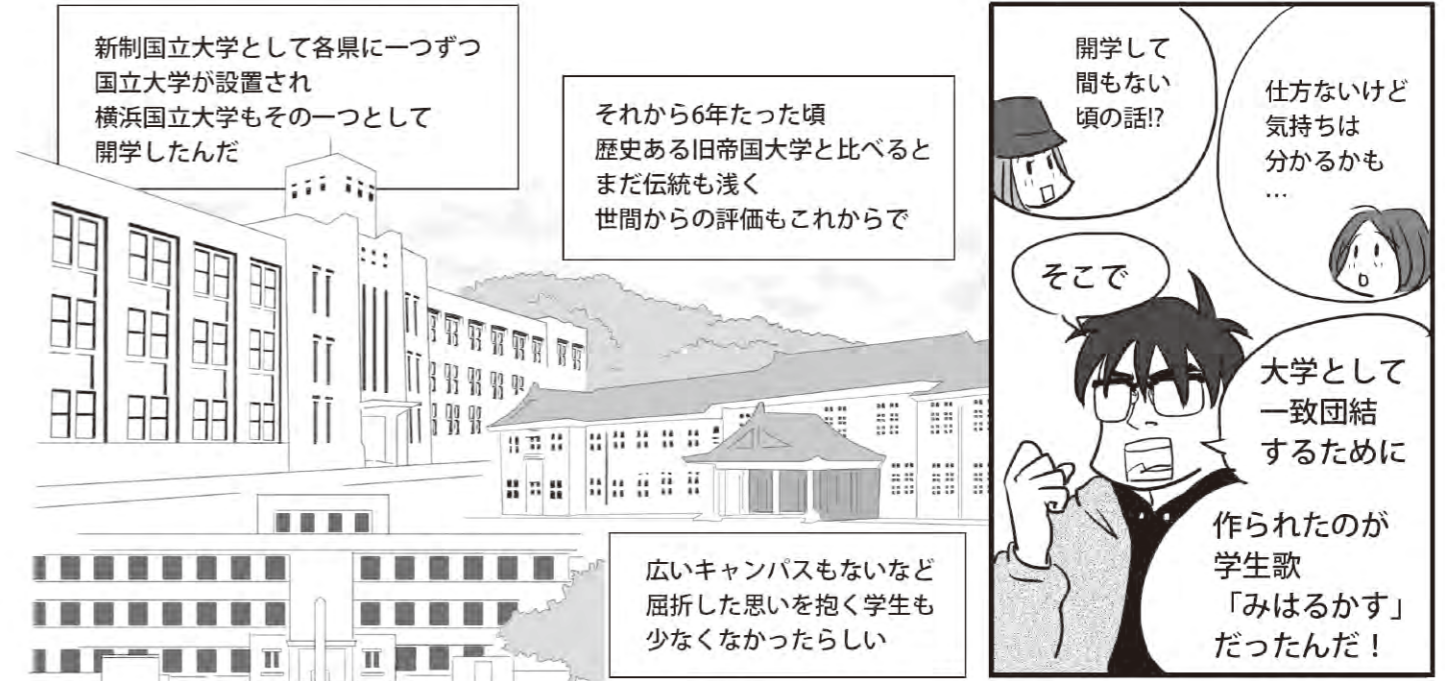
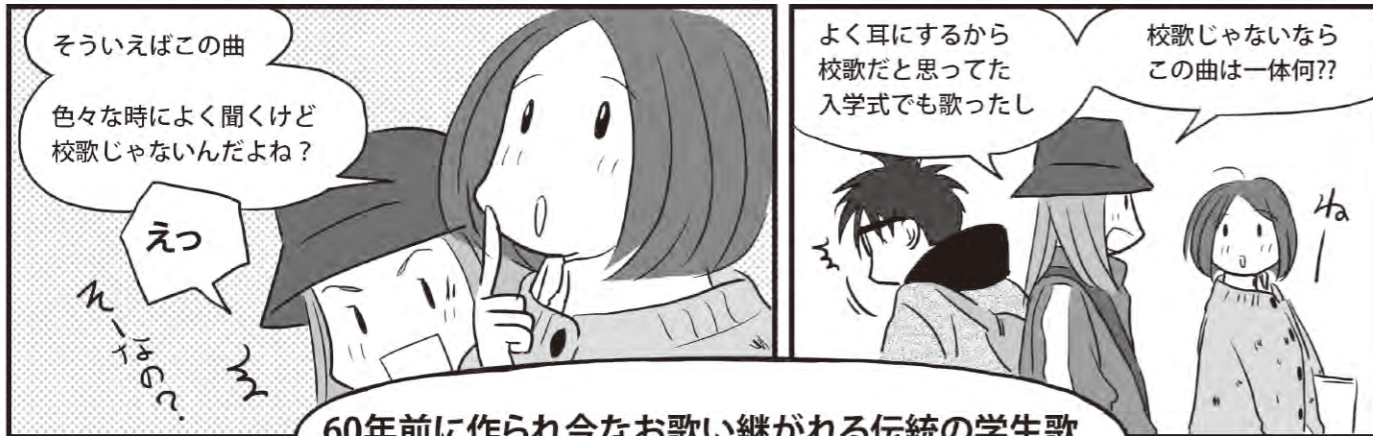
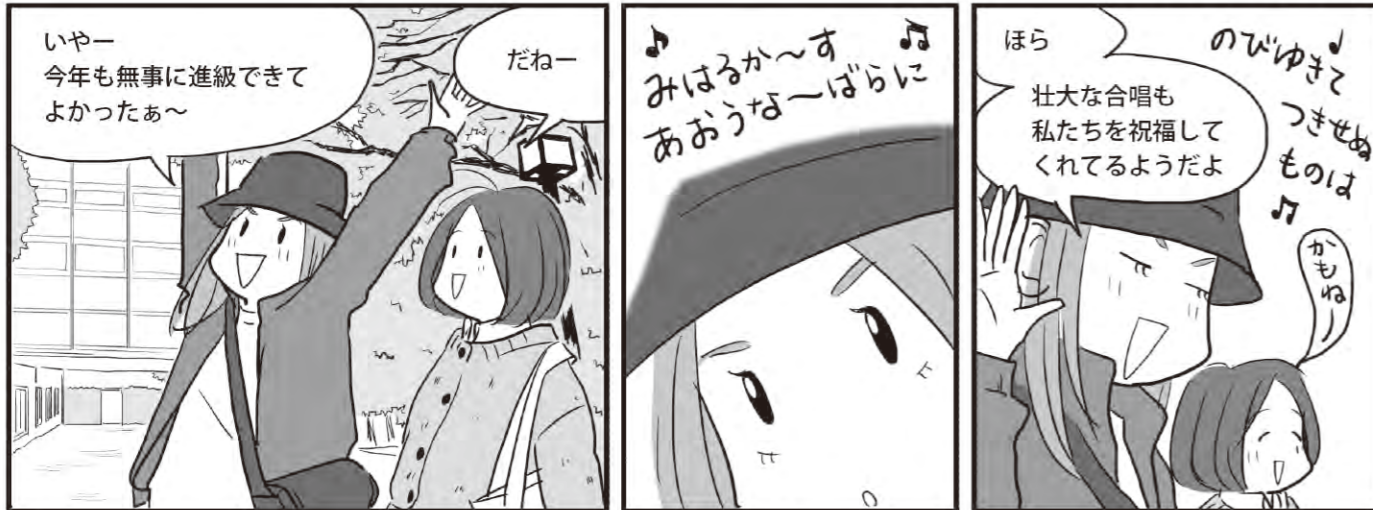


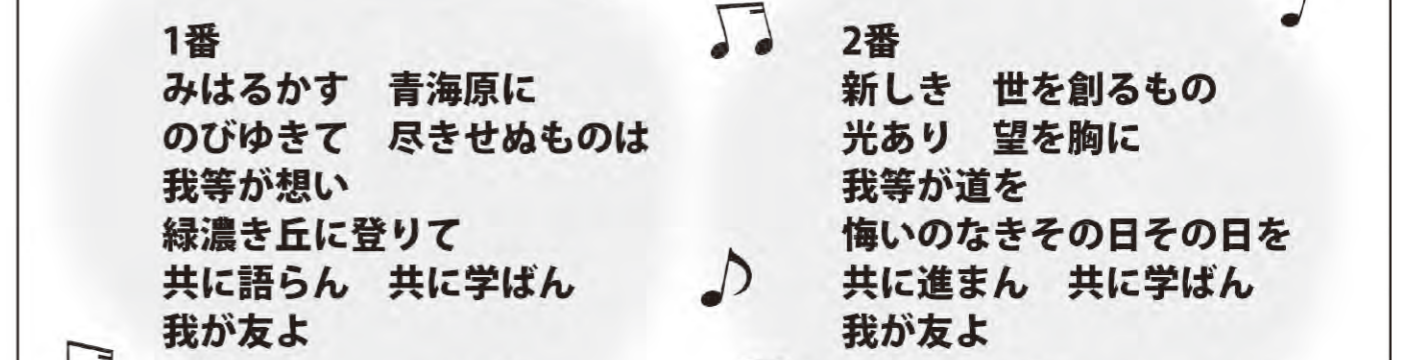
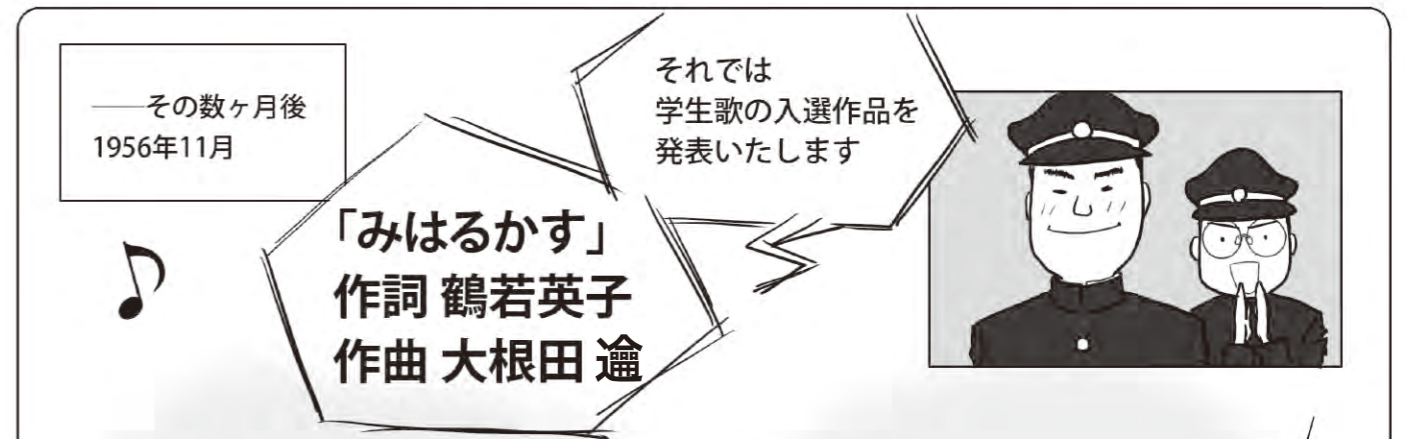
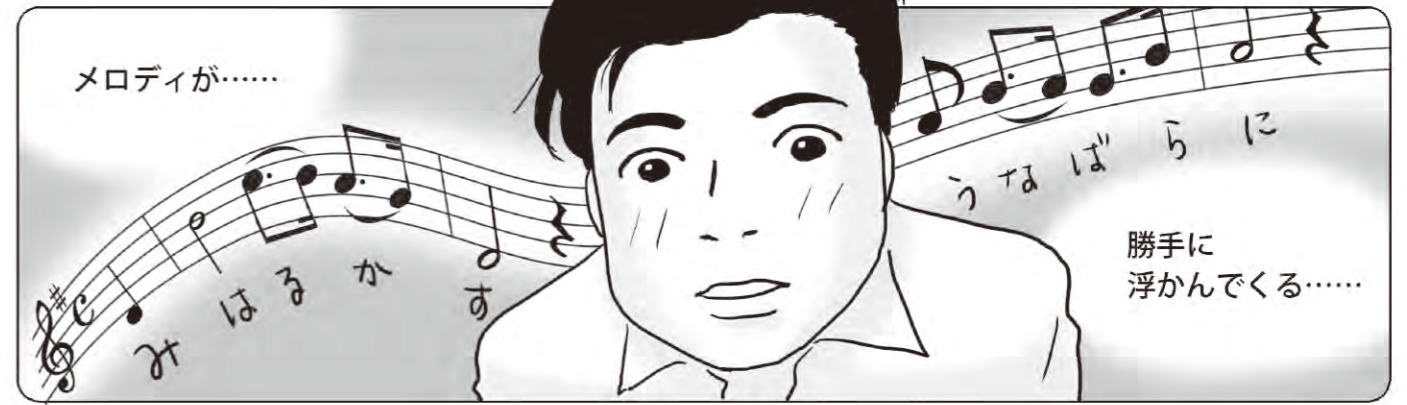
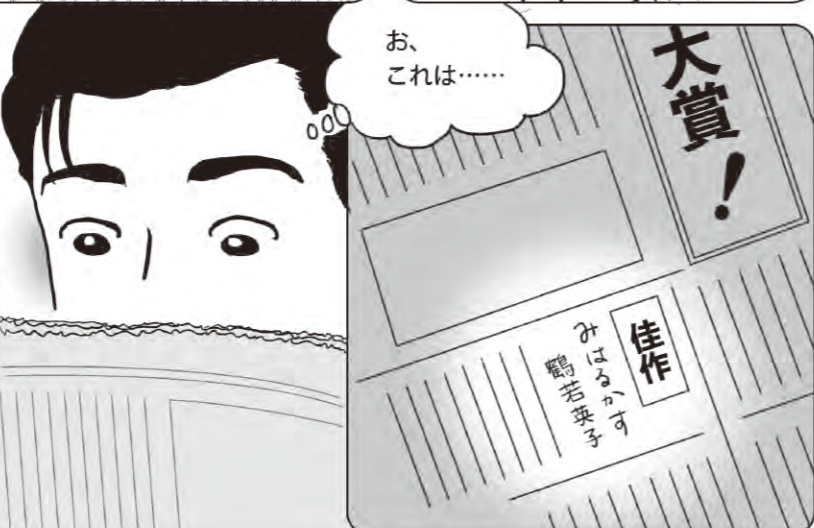
環境リスク共生学科 4年
昆 泰要
KON Taiyo



ヨココク歴史ものがたり

第7話 学生歌 “みはるかす”





YNU NEWS

Vol.
07

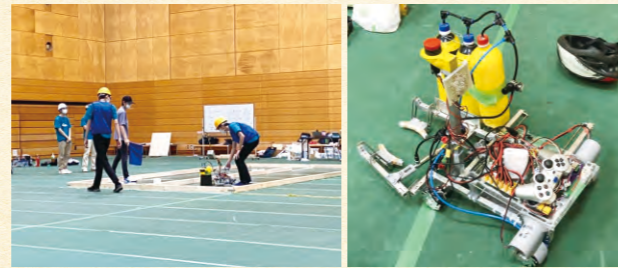
横浜国立大学の最新ニュース

NEWS
1YOXOカレッジ起業部が発足
事業立ち上げを目指す学生が集う

2022年4月、新規事業立ち上げを目指す学生たちの集まるコミュニティ、「YOXO (よくぞ) カレッジ起業部」が発足しました。本プロジェクトを支援するのは、本学および横浜市立大学、そしてイノベーション創出へ向けた産学公民の連携基盤である「横浜未来機構」です。立ち上げ時に集ったのは、横浜にゆかりのある30歳未満の学生たち11名(8チーム)。参加者は、横浜市のスタートアップ成長支援拠点「YOXO BOX」を活用できるだけでなく、事業推進および成長のためのさまざまなサポートや定期的な交流のためのミーティング、先輩起業家からのメンタリングなどの機会を得られます。

NEWS
2ロボコンサークル「Robo+ism」が
「関東夏ロボコン2022」連覇

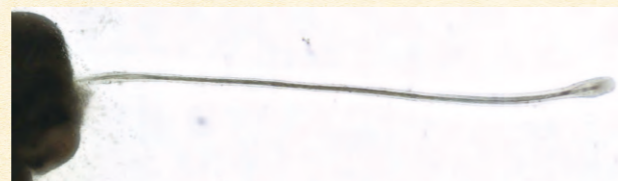
2022年9月に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「関東夏ロボコン2022」において、本学のロボコンサークルであるYNU ROBOCON PROJECT「Robo+ism」が優勝を果たしました。本大会は、NHK学生ロボコン(NHK大会)への参加を目指す団体に新人教育の場を提供することを目的としており、新入生でも参加しやすい開催時期および難易度となっています。Robo+ismは、東京農工大学R.U.R、東京工業大学MaquinistaチームA・チームB、東京工科大学ロボティオンとの総当たり戦に全勝し、前年に続き連覇を成し遂げました。

NEWS
3本学が文部科学省
「大学の世界展開力強化事業」に
採択されました

本学は文部科学省の令和4年度公募事業である「大学の世界展開力強化事業」において、「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム～横浜の地域力を活用した実践グローバル教育による日印豪ブリッジ人材の育成～」を提案し、採択されました。当プログラムでは、インド・オーストラリアとの国際共修プログラムを通じて国籍や分野を超えて学生チームを結成し、持続可能な社会の創造に向け、ワークショップやシンポジウムなどの取り組みを進めていきます。

NEWS
4従来は困難だった
「生体外で毛幹を生み出す技術」の開発に進展

工学研究院の景山達斗助教、福田淳二教授らの研究グループは、従来は困難とされてきた「生体外において高効率に毛幹を生み出せる毛包オルガノイドの作製」に成功しました。本研究は、身体組織の生成メカニズムを解き明かすための重要な一歩となると同時に、白髪や脱毛症の治療薬開発や毛髪再生医療発展への貢献も期待できます。この研究成果は、2022年10月22日(米国時間10月21日)に国際科学雑誌「Science Advances」へ掲載されました。



培養で生み出された約5mmの毛組織

横浜国立大学広報誌
横国刻々 第7号
2023年2月 発行編集・発行
国立大学法人横浜国立大学
〒240-8501
横浜市保土ヶ谷区常盤台 79番1号編集ディレクション
立古和智、松本友也、木村颯介 (fridge Inc.)編集・執筆
松本友也、平野あゆみ、木村颯介 (fridge Inc.)撮影
奥田一平、榊 智朗イラスト
中尾 悠アートディレクション
江原レン (mashroom design)デザイン
奥田一平 (mashroom design)製本印刷
図書印刷 株式会社お問い合わせ
横浜国立大学
総務企画部 学長室 広報・渉外係
TEL 045-339-3027
FAX 045-339-3034
URL www.ynu.ac.jp

横浜国立大学 卒業生・基金室

横浜国立大学では、教育・研究の発展の為、広く寄附を受け付けております。ご相談・詳細につきましては、右記のQRコードよりご確認ください。

TEL 045-339-4443 FAX 045-339-3034



アンケートのお願い

「横国刻々」のより充実した誌面づくりのために、ぜひWEBアンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートにご協力いただき、ご応募された方の中から、抽選で3名に「YNUサブレ&クッキー」をプレゼントいたします。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

応募締切：2023年8月31日(木)

ご回答方法：WEBにてご回答ください。右記のQRコードよりアクセスできます。

